

西条自民

クラブ

一色 輝 雄 議員



1 (代表質問)
市政運営の基本的な考
えについて

指定ごみ袋有料化施策の

方向性は？

問 1

現在の指定ごみ袋の
有料化に関する施策

は、ごみの減量に資すると同時に、受益者負担の原則、次の世代への負担を軽減できる施策であると考ええる。市長の公約である旧指定ごみ袋の使用期限撤廃は、現施策と相反しているが、その理由と今後の方向性はどのように考えているのか。

また、仮に現施策を変更する場合には、廃棄物減量等推

進審議会への説明、廃棄物の処理及び環境美化に関する条例の改正、市民への周知、販売店への説明など、いろいろな準備が必要であると考えますが、市民のかたがたの混乱を避けてどのようなスケジュールで進めていくのか。

答

現時点では、令和7年4月1日からごみの完全有料化が開始予定であるが、市長選挙の中で、旧指定ごみ袋の使用期限撤廃や指定ごみ袋の無料化を求める声が多く寄せられたことから、旧指定ごみ袋の使用期限撤廃を公約として掲げた。旧指定ごみ袋の使用期限については、当分の間の使用期限延長が望ましいと考えるため、旧指定ごみ袋の使用期限を延長する条例改正を視野に入れている。



ごみの減量化を図る取組を

現施策を変更するには、日程が厳しいことは承知しており、慎重に進めていきたい。

周桑病院の経営安定に

向けてどう取り組む？

問 2

西条市立周桑病院の
病院事業会計と指定

管理者である医療法人専心会の経営状況はどのようになっているのか。

また、病院経営に大きな影響を与える医師の確保にどのように取り組んでいくのか。

答

病院事業会計については、一般会計からの繰入金などを主な収入とし、企業債の元利償還金や一定以上の建物の修繕などにかかる経費を支出している。

また、医療法人専心会の経営状況については、指定管理を開始した平成22年度から令和4年度まで黒字経営を継続していたが、令和5年度に初めて収支が赤字となった。

現在、経費の節減はもとより、人間ドック利用者の増加や訪問看護の強化などに努めており、改善傾向にはあるが、

安定した経営状況になるまでには、まだしばらく時間がかかるものと認識している。

当病院が二次救急当番病院としての役割をじゅうぶん果たすためには、非常勤医師の確保が最優先事項であり、大学や関係医療機関などとの連携を図りながら、早期に確保できるよう取り組みたい。

伊藤 孝 司 議員



1 (一般質問)
行財政運営について

今後の行政運営に対する

市長の基本的な考えは？

問

効率的な行政運営を目指す一方、障害者や母子家庭などの社会的弱者にも

じゅうぶんな配慮が必要である。また、厳しい限られた財源の中で、行政運営には市民からの反応に一喜一憂するこ

となく、信念と合理性を持って政策の優先順位を付け、遂行していかなければならない。

市長は、今後4年間の行政運営に当たり、どのような認識を持っているのか。

答

今後、さまざまな分野において、市民に対して適切、かつ、じゅうぶんな支援を行うことを最優先と考えており、例えば、障害者や生活困窮者などに対するきめ細かな配慮と支援を行ってきたい。

また、どの地域においても活力を持続できるよう、地域コミュニティの維持と活性化に努めていきたい。

更に、全ての市民が健やかで幸せあふれるまちづくりを実現するために、教育や福祉、医療など、多岐にわたる施策について、地域全体が一体となって取り組む必要があると考えている。特に、子どもや高齢者、障害者など、支援が必要なかたがたへのサポートを強化することで、誰もが安心して暮らせる社会の実現に向け、今後4年間、行政運営に取り組んでいきたい。